

論文審査の結果の要旨および担当者

報告番号	※ 甲 第 号
------	---------

氏 名 松 田 俊 明

論 文 題 目

COPD Assessment Test for measurement of health status in patients  
with idiopathic pulmonary fibrosis: A cross-sectional study

(特発性肺線維症患者における COPD アセスメントテストの有用性について  
の横断的研究)

論文審査担当者


名古屋大学教授

主 査 委員

伴 信太郎 

名古屋大学教授

委員

葛谷 雅文 

名古屋大学教授

委員

横井 香平 

名古屋大学教授

指導教授

長谷川 好規 

## 論文審査の結果の要旨

今回、初診時に多面的評価を行った特発性肺線維症（IPF）の106例を対象にして COPD アセスメントテスト（CAT）の有用性を検討した。軽症から中等症の症例において CAT は内的一貫性、再現性を認めた。また CAT のスコアは従来用いられている St. George Respiratory Questionnaire（SGRQ）と強い相関関係を認め基準関連妥当性を有し、呼吸困難、努力肺活量、肺拡散能、安静時動脈血酸素分圧、6分間歩行距離、運動時酸素飽和度、抑うつスケール、不安スケールと単相関を認め構成概念妥当性があると考えられた。CAT は IPF の健康状態を把握するツールとして有用である。本研究に対し、以下の点を議論した。





1, IPF を始めとする間質性肺炎を対象に開発された、より簡便な質問票として ATAQ-IPF、K-BILD が存在するが現時点では信頼性を検証した日本語版が存在しない。一方、CAT の日本語版は既に日本人の COPD 症例を対象とした研究で信頼性・妥当性が証明され、COPD の日常臨床においても健康状態を把握するツールとして広く普及している。また IPF では肺気腫を合併することがあり、COPD と共通の質問票を用いることができれば CAT の有用性が高まると考えられる。

2, CAT が IPF 症例において信頼性のある簡便なツールであり、重要な臨床的指標との相関を認めることが示され、日常臨床において健康状態の把握に有用であると考えられる。今回の研究は横断的検討であり CAT による IPF 症例の予後予測や治療対象症例の選定について検討はできていない。一方、COPD では CAT の点数が高い症例は増悪のリスクが高く、より強い治療が推奨されている。IPF において CAT も含め健康関連 QOL が予後と関連するののかについても検討が必要である。

3, CAT を IPF の診療で普及させるためには、IPF の重要な臨床指標である呼吸困難、肺機能、運動耐容能の経時的変化とともに CAT が変動するか、についても検討し、臨床的に重要な最小変化量（MCID）を求める必要がある。さらに、抗線維化薬、呼吸リハビリテーション、長期療養酸素療法等の介入時においても臨床指標と CAT の経時的変化について検討する必要がある。

以上の理由により、本研究は博士（医学）の学位を授与するに相応しい価値を有するものと評価した。

## 試験の結果の要旨および担当者

報告番号	※甲第	号	氏名	松田 俊明
試験担当者	主査	伴信太郎  葛谷雅文  横井香平 		
	指導教授	長谷川好規 		

## (試験の結果の要旨)

主論文についてその内容を詳細に検討し、次の問題について試験を実施した。

1. COPDアセスメントテスト (CAT) 以外の既存の質問票との比較について
2. 特発性肺線維症 (IPF) における CAT の有用性について
3. IPF 診療における CAT の今後の展望について

以上の試験の結果、本人は深い学識と判断力ならびに考察力を有するとともに、呼吸器内科学一般における知識も十分具備していることを認め、学位審査委員合議の上、合格と判断した。